

学生服とジーンズのノウハウを活かして、 自社にしかできないものづくりに挑戦していきたい。

山崎 元樹

取締役部長 / 生産管理



もともと色々なことにチャレンジすることが好きで、異業種の金融機関からこの業界に飛び込んだ山崎さん。大学時代の友人であった藤川専務から誘われたことをきっかけに、倉敷市児島の地場産業の代名詞である「学生服」と「ジーンズ」の両方に携わることができる晃立への入社を決めました。入社後は、まずカジュアル分野のパターン、OEMの縫製、営業、洗い加工を経験し、繊維のことを一から学んだといいます。その後、学生服の分野に移りプリント加工を経験。薬品を使わずに永久的に形状を維持する技術に驚いたそうです。入社12年目となる現在は、プリント加工の生産管理を担当しています。「プリントは素材によって加工条件が違います。そして、加工時に使用するプリントの型紙がとても重要なんです。約2,500から3,000種類ある型紙は長年培ってきた技術であり、加工する職人の技能と併せて、晃立の大切な財産。」といいます。

「晃立は、様々な部署を経験させてもらえて、自分のやりたいことに挑戦させてもらえる会社。人として成長できる会社と感じています。」また、「この業界は、一見華やかに見えますが、生産現場に来てみると地味に思えるかもしれません。しかし、様々な地域から集まった人々と一緒にものづくりに携わり、学生服やジーンズが形となっていくことは、前の仕事にはない面白さがあり、喜びでもありますね。晃立の歴史の中で試行錯誤を繰り返してきた豊富な技術力を活かして、新しいことに挑戦していきたいですね。」



もっと生の声

Q & A

- やりがいを感じるのは、どんな時ですか？
品質と生産性の両立を求めて日々業務に取り組んでいます。改善すべきところとそうでないところの選択や加工条件を工夫することで取引先や消費者に喜んでもらえるよう品質向上に努めています。一つ一つの仕事に目標を設定し、それをクリアできたときの喜びは大きいです。
- 今後挑戦してみたいことはありますか？
カジュアル衣料と学生服の融合です。カジュアルと学生服の両方のノウハウを生かした“晃立にしかできないものづくり”に挑戦してみたいと考えています。
- 将来繊維産業に従事する人へメッセージをください。
失敗を恐れず、様々なことに挑戦し、経験しながら、一緒に繊維産業を盛り上げて行きましょう。

